

第2回あおもり立志挑戦塾

平成 25 年 6 月 15 日(土)~16 日(日) 青森公立大学国際交流ハウス(青森市)

□天明塾長挨拶 「人間力を高める」

今日は「人間力を高める」というお話をします。中国の古典に「大学」という書籍があります。「大学の道は明德を明らかにすることにあり」徳、良きもの。自分しか持っていない本当の良さ、個性を明らかにすることが大学の道。大人になっていくということは、自分しか果たせない使命をしっかり自覚していくこと。

「天子目りて庶人に至るまで、壹に是れ皆身を修むるを以て本となす」。昔、修身という科目があった。ある合会で、「何で日本は戦後、0の中からこれだけ経済成長を遂げたんだ」ということが話題になった。その時に一人が、日本は昔から「お天道様は見てござる」という言葉があったと。人が見てなくても常にお天道様が見ているから、自分に嘘をつくことはしない。その人間性が日本の回復を生んだんだって発言したら、拍手の嵐になったという話があります。

「物に本末あり、事に終始有り。先後する所を知れば、則ち道に近し」。道に近しというのは、成功していく、完成していくということだよ。本って根っこ、末というのは枝葉。いい花が咲いていい実がなるのは根っこがしっかりしているからだよね。根っこが大事。末というのは知識。知識を磨くことを一生懸命やっていたけれども、徳を磨くことをやってきてない、この国は。これがやっぱり戦後、大きく変わってしまった教育の弊害。

じゃあ人間力って何か。広い意味では①人間としての能力全般、狭い意味では②人間らしさ。人間力っていう場合には、人間らしさ。らしさとは人間だけが有している「心と行動」のありよう。この人間らしさって、私は人のためにということだと思ふ。人のお役に立つ、人に喜んでいただく。それは他の動物は考えないですよ。人間だけはそれがある。これが人間力の狭い意味。

(3) 人間力の要素を見てみると、能力の内容、能力＝職務能力×人格能力。職務能力というと仕事をする力、専門性×人格能力って何ですか、私の先生は人間性のことを人格能力って言ったんです。こころ。専門能力、職務能力とこころ、人格能力。人間はこの2つが車の両輪みたいなもの。どっちも大事だよ。だけど、本と末という意味でいったら、こころが本の部分、末の方が職務能力じゃないかな。この立志挑戦塾は知識なんか教えないよね。技能、技術も教えないよね。人間力、こころを高めていくことを、一緒に学んでいこうよ。人間として向上を図っていこうよと、これが目的だ。

その人間力を、②仕事の面から、a 経営者、b 管理者、c 専門職、こんなふうに分けてみると、経営者は経営戦

略の形成、戦略形成が仕事。管理者はb、業務の管理が仕事。そして専門職、管理に携わっていない専門職の人は課業の遂行。それを整理したのが③人間力の要素。この表です。縦軸に経営職、管理職、専門職。今日、ここには経営者の方もいる、社長さんとか管理職の方、専門職の方もいる。自分に合ったところで見ていただければいいです。横軸に知識、技能、体力、これは仕事の能力。職務能力は知識、技能、体力。頭・腕・体ですよ。頭・腕・体・知識、技能・体力、そして一番右、心と分けてみると、知識では①一般教養、②業務の専門知識、③経営・管理の知識。技能では経営職に求められる技能は経営戦略の形成。管理職では①業務の管理、②システムの改善、③人材の育成、④チームの組織化。リーダーだとか課長だとか係長は自分の部署の管理をする。専門職は自分の担当である課業、仕事を遂行する。そして体力、これは何ととっても健康。専門職の方は、その仕事に求められる特殊な能力、体力が求められているところについては特殊な体力があるね。最後、心、ここが一番大事なところですよ。①基準行動、人間として基本的な基準行動。②価値観、③人間関係、④家庭生活、⑤目標、⑥社会貢献。大きく分けてみると、私は6つのグループに集約されました。

ところで、(4) 何のために生きるんだ、何のために働くんだという目的をちょっと考えてみましょう。①無限の可能性を引き出し社会に役立つため、と言っている人がいます。人間は信じ難いほどの能力に恵まれてきた存在。自分の中に眠っているすばらしい資質を磨き、輝かせることによって周りの人を少しばかり幸せにする。

②幸せになるため。人間は幸せにならなければならない。それは権利ではなく義務であるというのは斎藤一人。東京の銀座マルカンのサブリを作っている会社です。人間は誰でも自分しか果たせない徳を持っている。その徳をきちっと発揮すれば幸せになる。だから、幸せになるのは義務である。

③人間性を高めるため。人間は魂をきれいにするために働くんだ。その場が会社なんだ。稲盛和夫。会社は目的じゃない手段。

2. 人間性の形成。(1) 人間力の原点って何ですか。①両親に生んでいただいた、育てていただいたことへの感謝、これが人間性の原点。②両親に感謝をしている人は素直でやさしい。③両親に反発反抗している人は心が歪んでいる人が多い。④両親に無関心でいる人はまわりの人にも関心が薄い人が多い。(2) どういうふうにして

間性って培われるの。①遺伝・教育・環境。遺伝的なもの、教育・環境。教育も環境も主として子どもの頃の家庭での教育、家庭での環境が大きい。それは②大脳の形成プロセスと関係がある。③大脳の中身は新皮質と旧皮質。新皮質は12歳頃からだんだん形成して、20歳くらいまでにはほぼ完成されると言われています。旧皮質は生まれてからすぐ活動が始まって、3歳くらいまでに完成すると言われている。ということは家庭環境。

(3) 人間性の高まり。人間性は恩の自覚。恩の自覚から感謝の心になり、報恩そして人に尽くす、そういう行動になって表れてくる。生んでいただいた、育てていただいた、おかげさま。それが感謝、ありがとう、ごめんなさい、もったいないに繋がっていく。

(4) 人間性のモノサシ。上に上がるほど「他人のため」「他利」。②下へ下がるほど「自分のため」「自利」。自分がよければそれでよし。他人を押しつけてでも、他人をだましてでも。

3ページ、上の表。人間性の高まり、成熟と未成熟。ちょうど真ん中に線があって、そこから見ていくと、成熟、上の方は真ん中から無関心、信用、信頼、協力、助

ける、他人の成長や幸せを願う。未成熟の方は自己中心、非協力的、対立、ねたむ、うらむ、邪魔をする、攻撃する。私達の心はどの辺ですか。

(5) 私の先生は、心の段階を7段階に区分しました。自己中心性、自分のことしか考えない。2段階、自立準備性、周りのことも少し考えられる。3段階、自立力、権利義務をわきまえる。4段階、開拓力。5段階、指導力。6段階、包容力、7段階、感化力です。人間、誰でも生まれた時は自己中心です。ところが小学校に行ったりするようになると、自立準備の2段階になる。成人して、家庭を持って自立力。子どもができて開拓力。妻や子ども達を養っていく。社会に出て指導力。社会で大事な役割を担うようになって包容力、感化力。私達はどこに在るだろう。それをどこまで引き上げていくのか。それをどのように高めていくか。これが実は、私はあおもり立志挑戦塾のすごく大事なところだと思います。

どうか、人間力を高めていく、あと後ろの方にチェックリストもありますが、それはまた後にしましょう。いずれにしても、一緒に人間力を高めていきましょう。

□講話

講師 野田一夫 氏 (財団法人日本総合研究所会長)

テーマ 「ゴツゴツした人生と滑らかな人生」

名誉塾長の野田です。この間、島田君は冒頭に、アベノミクスという話から始めたらしいな。僕は、アベノミクスは成功してほしいと思っています。それはアベノミクスが理論的に正しいと思っているからじゃありません。運が良かったからです。

今日のテーマは「ゴツゴツした人生と滑らかな人生」。アベノミクスに反対だという人と賛成だという人、これはいい。大部分の日本人は成功してほしい。あまりにも長くデフレの不況が続いた。日本を立て直さなければいけないという時に、安倍政権がアベノミクスという政策を立てた。私のように戦前から生きている人間にとっては、政治家のやった仕事の中で大きな戦後の改革がいくつかあった。



例えば、池田内閣は所得倍増論を出した。1968年、日本は西ドイツを抜いてGNPで世界第2位の経済大国になった。その直後、田中内閣、日本列島改造論を唱えた。どちらも国民の中には期待感というのが絵としてあった。

アベノミクスの一番の問題点は、絵が浮かばないんだ。アベノミクスが成功したら日本がどう変わるのか。君たちはこれからそういう訓練をしろ。そうすると、自分が人から聞いても満足できない、見に行くんだよ。だんだん面白くなるんだ、生きているということが。生きているということは一流の人に会える、一流の作品を見るといことなんだ。そうするとね、だんだん人生が面白くなる。

所得倍増、日本列島改造論、アベノミクス、小泉さんのやった構造改革論もあるけれども、その中で前の2つは確実に絵があった。だけど、後の2つは絵が無い。それだけ日本は知的になったのかも知らんが、面白みが無くなった。

そこで本題である「ゴツゴツした人生、滑らかな人生」は何を意図しているか分かるな。僕はゴツゴツした人生を歩んできた。それは自分の好み。

僕の父親は、航空機の技師。ゼロ戦などの開発の責任者だった。僕は、当時は航空少年。僕は非常に父親を尊敬した。自分も父親を超えるような技術者になろうと思った。父親の一番嫌いな言葉は何だと思っ？愚痴、陰口。「和を以て貴しとなす」。聖徳太子がどういう意味でおっしゃったか知らんが、日本人が「和を以て貴しとなす」と言うと、会議などで大体意見が決まりかけている時に、「私反対です」と言って座を白けさせるのは良くない。例え反対でも、その時はじっと黙って、会議が終わってから誰かに、俺はあまり賛成じゃないよと。それは非常

に日本的なんだ。僕自身、人生を生きて、何で自分がゴツゴツ生きたかという、100%親父の影響なんだ。だから、僕は若い頃から敵だらけだ。しかし、面白いぞ、僕がここに至るのはたくさんの味方のお陰なんだ。味方がなぜできたか。敵ができた時だよ。君たちの中で、心友、心の友というのを持っているか。自分が間違った時に、「おい、何々君、俺は絶対君がおかしいと思うよ」と言ってくれる友達がいるか？そういうのがいなければ人生、楽しくもないし、まともでもない。何でも言える。そういう友達を作れ。そのためには自分に対して自信を持たなければダメだ。

結局僕は思うんだ。僕自身はゴツゴツした人生を生きた。しかし、お陰で他の人よりはるかに心友、心の友が各界にいるんだよ。今日、僕が非常に人間として満足しているのは、敵もたくさんいたけれども味方もたくさんいる。味方が僕のいいところを伸ばしてくれたと思っている。

皆に僕のように生きると言っているんじゃないよ。君たちはどんな生き方がいいと思っているのかはそれぞれ違う。己を殺して現実妥協をするなど言っているんだ。

自分はいい学校に入れなかったとか成績が悪かったとか、そういうマイナスなことはあまり気にしない。それより自分にとってプラスのことは何か。人間は人間、自分の長所を最大限活かして人生を渡るのが一番いい。自分の弱点の方を気にすることは戦略的によくない。自分の長所というものをちゃんと知っている人間が強い。僕の場合には、子どもの頃に尊敬している父親からいろんなことを言われる。その時に尊敬している人が言うからそれを信じる。結果的に今、振り返ってみると、自分は良かったと思っている。

敵なんていたからといってもそう大したことはないけれども、味方がいないということは問題だ。味方ができるということは、その味方が紹介してくれた友達もまたできちゃう。だから敵がたくさんいても味方もたくさんいる。

自分は何かということを考えてみたことがあるかだ。人の真似なんかするな。自分はどんな人生を生きたいかという、ちゃんとした原則を作れ。自分は滑らかな人生を生きたい、どんな人にも刃向かわない。人の悪口も言わない、敵も作らない、味方もいないという人生もある意味立派なものだよ。そういう人がけしからんと言っているんじゃない。僕は、僕の人生に満足をしているという話をしている。

だから、大きく分ければゴツゴツした人生と滑らかな人生だ。86歳、振り返ってみると非常に人生に納得し、満足をしている。自分の能力を思う存分発揮したと思っている。この間もね、「野田先生、最近どうですか」「いや、俺はね、忙し過ぎて死ぬ暇がない」と、非常に名言として述べた。だから、本当に明日死んでも安らかに死んだと思え。本当にそう思う。

【質疑】

(塾生) 野田先生の他に、ゴツゴツした人生を送っている方、いらっしゃいますか。教えてください。

(野田名誉塾長)

ゴツゴツした人生という言い方は、自分が自分らしく生きるということだよ。例えば、IBMの会長は椎名武雄というんだ。僕の心友だよ。

(塾生)

単純な質問なんですけど、敵を作ること自体が怖いという感じを持っていることはないですか。

(野田名誉塾長)

相手がピストルを持っているとかなら僕も案外黙っているかもしれないよ。怖いと思うより、言わざるを得ないという方が先なんだ。それぞれの分野で名を成した奴を見ると、皆それなりに己を持っているよ。

(塾生)

ビジョンを浮かぶ訓練は具体的に何からスタートさせればいいのか。具体的にビジョンを描けと言っていましたけれども。

(野田名誉塾長)

今言ったように、例えばアベノミクスを読むわね。読んだ時に、自分の生活はどう変わるのか。自分自身の3年後、5年後の人生、その時に日本というのは今のままだったら、ずっと自分は日本にいるんだろうかと。全部自分自身の頭の中で絵として見る訓練をするかどうかだ。癖。僕の場合は、いつもそういうことを考える。だから、君自身そういう癖がついてなければ、僕の話で納得できたら努力をして、新聞を読んだ時にも自分を中心に、日本という国を中心にして絵にするかどうかだ。ビジョンというのは絵なんだ。だから、ビジョンのない政策は、何となく信用できない。

(塾生)

私は先生と逆で、言いたいことを我慢してしまう方で、私からすると、言いたいことを言う人はすごく滑らかな人生だと思うのですが、敵を作るという意味は。

(野田名誉塾長)

ずっと生まれてから男だから、女性に対して僕自身がサジェスションをするほどの資格がない。だから参考に僕の話聞いてください。

(塾生)

野田先生の青森への印象というものがありませんでしたらお聞かせいただきたいのですが。

(野田名誉塾長)

青森に来た時にはびっくりしたね。青森のイメージは、北の国で雪が多くて皆無口。ところが、皆さんと接すると元気じゃないか。青森のイメージは全く変わった。三村さんを見たら分かる。日本の知事の中で一番よくしゃべる。青森の人はものすごくバイタリティーを持っている。

(塾長)

ベンチャー三銃士がすごく尊敬している野田先生から見て、このベンチャー三銃士の成功要因というか、その辺のところをちょっと教えていただけると。

(野田名誉塾長)

世の中で僕のところに来た人間は、何百人という。あの3人は、将来大成功すると思って俺が付き合っていたんじゃないよ。何百人の中から大成功した人間が三銃士と言われている。全然、彼らに何を言ったか覚えてない。

だから孫君が僕のところに来た時は、社員が2人だったということ、全然覚えていない。僕が今、覚えているのは、孫君に「何で日本へ帰ってきたのか」と。その頃はシリコンバレーが発展する時期だよ。「シリコンバレーで仕事をしていればいいのに」と言ったら、「僕は日本が好きですから」とニコリ笑ったことは覚えている。

僕は有名な人間だけをついばんだんじゃない。無名だって素晴らしいものいっぱい。有名、無名なんて偶然のものだ。売り上げは小さくたって立派な会社はたくさんあるよ。大きくなるのが目的じゃない。元々需要が少ないんだから、売り上げが増えるはずはないだろう。しかし、その製品がなくなれば、困ることもたくさんあるんじゃないか。だから大きくなる会社の方が立派だとは思わない。大事なことは持続して、世の中にとって非常に必要だと。

(塾長)

ソフトバンクの孫正義さんが野田先生からすごい刺激を受けたのは、夢と志は違うんだと言われて、それで孫正義社長は「そうだ」と変わっていったということを書いています。

(野田名誉塾長)

それもね、全然覚えていない。誰が言おうと同じことを言ったと思う。夢というのは誰でも描くんだ。少年・少女は世の中を知らないから、自分が生まれてきたことをぼやかない。ぼやき始めるのは、自分がある程度になってから。少年や少女は健やかに育ち、自分の人生の夢を。しかし、やがて現実というものを知るにつけて夢は薄れていく。

だが志というのはそうじゃない。3歳にして志というのと付き合ったら怖いよ。志というのは大体10代半ば。志というのははっきりしたものだよ。要するに、夢と志がどう違うかという話を僕がいろんな若い人に話す。その中の1人が孫君だった。

(塾長)

野田先生のところに来ているのは、先生は忘れちゃっているのね。だけども聞いた方はしっかり覚えていて、それが動機になって人生が変わっていく。だから、野田先生は知識を教えたり技術を教えたりしているんじゃないよ、今日話したような言葉に動機づけられて本人自身が変わっていった話なんです。そこのところをちょっと分かってほしかった。

(塾生)

先生は敵も多いけれども親友も多いとおっしゃいました。心の友と親しい友の大きな違いと、はたまた親友ができるタイミングというのはどういった時に起きますか。例えば意見が合った時だけなのか。

(野田名誉塾長)

矛盾したことを言うやつがいる。そういうのは全然相手にしない。相手にしないでいいじゃないか。言うんだよ「お前、卑怯だ」と。大体卑怯な奴は成功しないよ。

今日はゴツゴツした人生と滑らかな人生、女性に関しては滑らかな人生がいいのかもしれませんが。僕の場合は男性として生きて、自分らしく生きるということはそう楽なことではないけれども、ゴツゴツした人生を生きる方が、長期的に見るとその人の個性を發揮していきやすい。「力を尽くして狭き門より入れ」という言葉があるでしょう、アンドレ・ジッド。「命に至る門はせまく、その道は細く、これを見出すもの少なし」

だから力を尽くして狭き門より入れ。自分は自分らしく生きる。自分らしく生きるというのは、日本の社会ではゴツゴツするんです。敵は刺激になっていいけれども、味方がいなければ何もできません。味方というのは同志。だから1人でも2人でも自分の同志、心の友、心友、そういうのがない人生は寂しい。だから是非心友を作りなさい。同じ志の同志を作って生きていきなさい。そのためには日本の社会では滑らかなには生きられないということです。それだけは忘れないで。僕はゴツゴツした人生を生きた人間の1人としてしゃべっただけです。

以上です。ありがとうございました。

□グループディスカッション

テーマ：20～30年後、自分たちはどうありたいか。そのために自分たちができることは何か。



三村知事による塾生激励